

ホリデー 12月号 '88

TRIAL



トヨタの挑戦

AT仕様とあなごれぬ 強烈な加速にガク然

チューンド・カーで300km/hオーバーを、いち早く達成した関西のトライアルが、スーブラをベースに、またまた300km/hオーバーの記録に挑んだ。そして、さっそくそのレプリカモデルが、ストリート・バージョンとして細部にデチューンを加え、登場して来たのだ。

外観は、最近のハヤリでそれと気付かせないノーマルっぽい仕上がり。それでも、チューナー牧原氏の眼の奥で、何かが鋭く光るのが、どこか引かかる。

その予感、わりとすぐ現実となって現われた。私はヒトよりは「速いクルマ」に慣れているハズだった。しかも試乗車はAT。そんな油断が、不用意に開けてしまったアクセルで、一気に襲いかかって来たのだ。

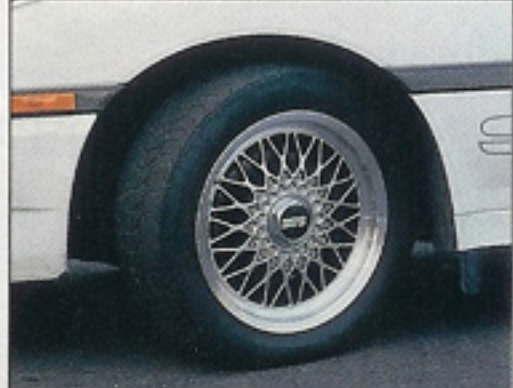
レカロの新作、ラリー・スペシャルのシートに、身体が同化したまま動けない。これは、ま...まずいぞ。少しスピードをダウンさせた街中フィードでは、さすがに足のゴツゴツ感が拭えない。足まわりも谷田部仕様と同じで、フロントはやけに堅いから、そのあたりが、路面のわだちを拾った時に、ステアリングに返ってくるのだ。

「あまり、ワインディングは得意じゃありませんよ」という話だったが、阪奈道路を經由して、ワインディングに入ってみた。どーしてどーして、ワインディングが苦手なものが、オリジナルの鍛造85φピストンで組まれた3.0は、ターボ効果を考えて圧縮を落としているものの、下から十分なトルクで鈍重な



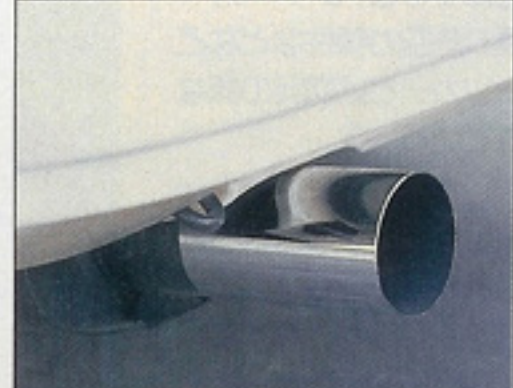
FRONT GRILL

外観上、このスーブラをノーマル車と区別するのはマフラーと、このスモークレンズ。これひとつでもイメージはピシリと向上する



TIRE & WHEEL

BBSにはかされるのはBBSのRE71。サイズは前205/55R16、後225/50R16。オリジナルショックキットとの相性はよしノ



MUFFLER

谷田部テスト用のスペシャルで、口径は94φ。消音効果はまずまずだが、ストリート専用にはビクトリーの74φも用意されている